

最優秀賞に堤昭文さん 福岡デザインレビュー'15



全国各地の大学、大学院、専門学校、高専などで建築を学ぶ学生らが意見交換する「福岡デザインレビュー2015」が

6日と7日の2日間、福岡市西区の九州大学伊都キャンパス内にある椎木講堂で開催された。今年で20回目の開催となる大会には、事前審査を通過した作品82点が出展され、最優秀賞に堤昭文さん（日本大学）の「故郷

の星懐」が選ばれた。写真

デザインレビューは、学生自らが実行委員を務め運営等を行い、個人や企業がスポンサーとして協力している。また、特別協賛として(株)総合資格学院(岸隆司学院長)が出版物の発行も行った。今年の大会テーマは「機」。東日本大震災を機に日本における建築の在り方が変化しつつあり、

今こそ新しい提案を発信する絶好の機会ではないか。20回目の節目を迎え、建築の原点である機能性について再度見直す場としたいとの思いが込められたもの。

大会は、全国から応募のあった約360点を事前審査で絞り込み、本選出場者82点を決定。本選ではポスターセッションなどで審査を行い、決勝進出者12人を決めた。決勝は2人1グループで5分間のプレゼンテーションを行い、出展者は自らの作品コンセプトを審査員にアピールした。投票・議論の結果、最優秀賞に堤昭文さん（日本大学）の「故郷の星懐」を選んだ。優秀賞は大野宏さん（滋賀県立大学）の「敷地の上の設計室」見えないものを見た生活と設計の記録」と小黒雄一朗さん（九州大学）の「湯桁 時を囲う」の2

作品。そのほか、審査員6人の個人賞と（公社）日本建築家協会（JIA）九州支部選奨賞6点を選出した。

表彰式では受賞者に賞状などが贈られ、審査員を務めた内藤廣氏は「学生の意見や考えは我々審査員にとっても勉強になる事が多い。建築の価値を見いだすのが難しい時代となっているが、皆で切磋琢磨して頑張るって欲しい」などとエールを送り、学生達の今後の活躍に期待を込めた。

また、特別協賛の総合資格学院天神校の三橋浩史学校長は「我々は建築の魅力が学生に伝えたいとの思いから大会に協力させてもらっている。大会中には、実行委員や出展者と意見を多く交わし、建築に対する熱い想いを聞くことができた。今後も活動をサポートしていきたい」と述べた。

「湯桁 時を囲う」の2

2015年3月10日
九建日報